

第0章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

DOLPHINROSE

AC 無料講座

第6章

『能力以外に必要なこと』





目次

1. ごあいさつ
2. 動物についての知識
3. 表現する力
4. ACに関する実例の引き出し

※本教材、および収録されているコンテンツは、著作権、知的財産権によって保護されております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、書面による許可(ライセンス)なく複製、

改変するなどして、またあらゆる データ蓄積手段により複製し、

オークションや インターネット上だけでなく、転売、転 載、配布等、いかなる手段においても、

一般に提供することを禁止します。

1.

ごあいさつ

こんにちは(^_^♪ゆうです。

第6章では、『**能力以外に必要なこと**』について説明していきますね。

A Cを勉強する…となると、どうしても「特殊な能力」に意識が行きがちですよね。
でも能力を開くことが出来たとしても、それだけではA Cは出来るようにはなりません。

今日はそんな『能力以外に必要なこと』について説明していきます。

2.

動物についての知識

能力以外に必要なもの。

その中でも、一番大切なのは「動物についての知識」になります。

特に

- 肉体の構造
- 病気
- 本能、習性

この3つはとても重要なので覚えておきましょう。

1つ1つ説明していきますね♪

1. 肉体の構造

筋肉、内臓、骨、神経など、動物の肉体の構造を詳しく知れば知る程、ACをする上ではとても役に立ちます。

そもそも犬や猫、そしてその他の動物たちは、人間とは肉体の構造が違います。身体機能なども、それぞれに独特の進化を遂げています。

相手の状態を読み取る「リーディング」を行う時、**肉体構造の知識が乏しいと得られる情報も少なくなってしまう**ます。

肉体構造の知識があればあるほど、動物の体の情報を詳しくはつきりと得ることが出来るのです。

動物の体を頭の方からしっぽまでリーディングすることを「全身スキャン」と言います。

(体内をスキャンする場合は、体内スキャンと言います。)

このスキャンを行う際に、**異常がある箇所では自何かしらの違和感を感じる**ことがあります。

その時、もっと情報を得ようとリーディングしていきませんが、

例えば内臓がぼんやりとビジョンで見えた場合、

もし、肉体構造の知識がなくその内臓が何なのか知らなければ、リーディングの情報はそこまで終わってしまいます。

リーディングは、自分が知っていて、尚且つ興味があるところしかビジョンを見ることが出来ないからです。

昔、リーディングの練習をペアワークで行った時、お互いの体をスキャンしたのですが、私は誰もが知っている内臓を外側から観ていくことだけで精一杯でした(>_<)

一方、**医療従事者**だったお相手は、内臓の外側も内側も、そして私の甲状腺の状態までをも観て下さいました。

知っているのと、知らないのとではこんなに差が出てしまうのです。

また、筋肉などを勉強することでその動物がどのように動くかも理解出来るので、その動物が感じている感覚を自分の体で感じようとした時に、よりリアルに感じる事が出来るようになります。

2. 病気

肉体構造にも関連しますが、それぞれの動物の「病気」についての知識もA Cでは必要になってきます。

ただ、ペットを飼われている方であれば、ある程度、ご自分のペットの病気についてはお勉強されていることと思います。

これからお友達のペットにACをしていく予定の方や、ACをお仕事にしていこうと思われている方は、ぜひ、色々な動物の肉体構造や病気について、学ばれておいて下さいね。

先程も書かせていただきましたが、第六感（能力）を使う時、

「自分が知っている」

「興味がある」

ところの情報しか得ることが出来ません。

例えば、この病気の時にはこの辺りが痛む。

など、事前に情報を知っていれば、その病気が疑われたときに、

その箇所にピンポイントでフォーカスして、そこに痛みがあるかどうかを観てみる

ということが可能になるのです。

病気の知識を得ることでのメリットは他にもあります。

例えば、インフルエンザにかかったことがある人が、他の誰かがインフルエンザで苦しんでいるのを見た時、

「ただなんとなく辛そう」

ではなく

「うわー、辛いよね(T_T) 節々痛いし、頭も喉も痛いし、熱でふらふらだよね」

と辛さの詳細を細かく想像することが出来ます。

自分の経験や知識からあらかじめ「ここがこうなってるはず」と観てみることで

それが基準となり、実際にリンクしてみたときに

「あれ？意外と痛みを感じていないみたい」

「思ったより酷いなあ」

など、**詳しく感じる事が出来る**のです。

ただ、ここで注意していただきたいことがあります。

ACは医療行為ではありません。

あくまで感じたことをお伝えするものになります。

「断言」してはいけません。

可能性だけお伝えします。

お相手には、必ずここをきちんとお伝えした上で、参考程度に聞いていただき、何かいつもと違う違和感を飼い主さんが感じられていましたら、早めに病院に行かれることを勧めて獣医師の診断を仰いで下さいね。

3. 本能、修正

ACを行う上で、「本能、習性」については、**私個人としては「絶対」に学んでおいて頂きたい項目になります。**

ACは動物と意思疎通することが出来ますが、

意思が伝わると何もかもが説得できる気がしてしましますが、それは間違いです。

ペットさんの問題行動全てが説得で解決できるわけではないことを覚えておいて下さいね。

動物には本能があります。

理性が発達している私たち人間ですら「食欲」「睡眠欲」「排泄欲」という本能がありますよね。この本能は、自分の意志で抑えることが出来ません。

そして、動物はこの本能の割合が私たち人間よりも遥かに大きいのです。

もし、ペットの問題行動が本能から起きているとしたら、

それをすることでどれだけ飼い主さんが困るのか、どうしてそれをしてはいけないのか、
ペットさんがいくら理解することが出来たとしても、本能から来る自分のその行動を理性
で抑えることは不可能なのです。

そうとは知らずに、ずっと「やめて欲しい」と言い続けていたら、ペットさんはとても悲しい思いをすることになります。

本能から起きている行動に「**してはいけない**」と伝えることは

人間ならば

「一生食べないでね」

「一生トイレをしないでね」

とされているようなものなのです。

では問題行動が本能から起きているのなら、飼い主さんは諦めるしかないのかと言うと、そうではありません。

その解決方法についてはまた後半の回で詳しくお伝えしますね。

まずは、動物の本能、習性を知っておくことが大切だということを覚えておきましょう♪

3. 表現する力

「能力以外に必要なこと」の2つ目は「表現する力」です。

A Cは、最終的には「言葉」でも受け取れるようになりますが、最初のうちは「体感」として情報を受け取ることの方が多いと思います。

そして、

私たちは日々の中で体感で受け取ったもの、感じたものを、「言葉に直して表現する」ということをあまり意識して行なっていません。

一方、小説家さんや、芸術家さん等は自分が感じているものを表現することにとっても長けています。

また、テレビのレポーターの「食レポ」も、感じたことを言葉に直して、どんな味なのかを見ているこちら側の人にも想像できるように分かりやすく上手に表現されていますよね？

私たちも、A Cを上達させるためには、相手に**分かりやすく伝えるための練習が必要**になります。

時々、「自分の家の子とだけお話出来ればよいので…」という方もいらっしゃると思いますが、A Cで会話した内容はその場で記録しておかないとすぐに忘れてしまいます。

前回の脳のお話を思い出して欲しいのですが、右脳は記憶担当ではありませんでしたよね？

※正確には右脳も一応記憶はしているのですが、記憶が自分の意志で自由に取り出せる場所に保管されていないのです。

自分のペットさんとの会話だけが目的の場合も、メモを取るという行為が必要になりますので、やはり「言葉に直して分かりやすく表現する」部分は鍛えておく必要があるのです。

4.

AC に関する実例の引き出し

「能力以外に必要なこと」の最後は、「ACに関する実例の引き出し」です。

ACでは、自分もしくは、他のアニマルコミュニケーターさんたちのACの会話の実例を数多く知っておくことがとても大切です。

動物たちとの会話は、人間同士の会話と違って時には予想もつかないような結果になったりします。

私も、ACを行って来て、こちらの想像を遥かに超える健気さや、ユニークさに何度も驚かされています。

動物からの答えがこちらの想像の域を超えていると、中々正解にたどり着くことが出来ないことがあります。

ACの会話の実例を沢山知り、頭の中に「実例の引き出し」を沢山作っておくことで、自分の想像の領域が広がり、動物との会話の内容がより深く広くなるのです。

また、問題行動の解決の際、ペットさんから原因を聞き、ペットにも飼い主にも優しい解決策を考え、提案するのがACの仕事になります。

その時にこの「実例の引き出し」がないと、せっかく問題行動の理由を知ることが出来ても、解決まで導けないという悲しい結果に終わってしまいます。

前に、

私はACをする際「100%ペット側の味方の弁護士」のつもりでやっています。

とお話させていただきました。

弁護士は、過去の判決例を調べ尽くして、沢山頭の引き出しに入れてから裁判に挑みますよね？
A Cも一緒です。

「こういう問題の時は、こんな解決方法もあるらしい」と知っていることで、まずペットさんにこのことを説明して「協力する気があるかどうか打診してみる」ということが可能になるのです。

昔と違って、今は沢山の日本語のA C関係の本が出版されています。

ぜひ日ごろから時間がある時に、ただ読み物として読むのではなく、

自分の頭の中に「**実例の引き出しを作る**」ことを意識しながら読んでみてくださいね。

